

曽我山ハイキング



2005年4月17日(日)「曽我山ハイキング」に出かけました。「曽我山ハイキング」とはいうものの、曽我山という山はなく、国府津から松田にかけて続く丘陵地を曽我丘陵とか曽我山と呼んでいるのです。今回は、その一部、不動山から浅間山と続く丘陵地帯を歩くことにしました。御殿場線の下曽我駅で下車して歩き始めます。仇討ちで有名な曽我氏の菩提寺城前寺に立ち寄り、その後道に迷います。不動山への道を尋ねると「あれはうそ山だから」と教えられます。不動山へ向かう道はみかん畑のために作られた農道を延々と登ります。農道が終わった場所が鞍部で、右が不動山、左が浅間山となります。せっかくなので不動山へ向かいました。見落としてしまいそうな“不動山入口”の標識で右手の草むらをかき分けて登った山は、展望も無く、騙されたという雰囲気。なるほど、不動山はうそ山だ！鞍部に戻り、浅間山へ向かいますが、車が入ることができる未舗装の林道が続くばかり。浅間山がどこなのかもわからぬまま、下り始め、気が付くと舗装された車道に。そして、上大井駅へと歩きます。山を登ったような気がしないハイキング、でも、海が見え、真鶴半島、箱根の山、丹沢の山と景色は素晴らしいものでした。



もう孫がいるんだって

2005年4月17日(日)朝8時45分、小田急線町田駅に集まったのは、小野勝彦さん、桜井利子さん、横山和明さん、町田行弘の4人でした。8時54分の電車に乗り、次の相模大野駅で9時03分の始発の急行に乗り換えます。9時43分、新松田駅で下車し、JR御殿場線の松田駅まで歩き、9時56分の国府津行に乗り、10時04分下曽我駅に着きました。なんとものどかな静かな駅前です。駅前の和菓子屋さんに小野さんが入って行きました。今年に入って小野さんの流行(?)なのか、駅前のあるいは、歩き出して見つけた和菓子屋さんで腹ごしらえをします。そして、話のついでに、観光情報を聞き出します。ところが、今回聞き出したのは、店に立っていた女性の情報。「美人だねえ。旦那は?」「もう、孫がいますよ」確かに若くてきれいな方でしたが、お孫さんがいるとはビックリ!桜井さんに教えてあげると、「そんなことまで聞き出したんですか」と話の内容にあきれてビックリしていました。城前寺への道を教えてもらって出発します。

曽我兄弟の仇討ち

日曜日、10時過ぎというのに、どこも開いていない商店街を歩き、突き当たりを左折し、宗我神社への参道に入らず、右へ



進むと標識があり、右折します。するとすぐ左側に城前寺がありました。が、開いていない…。曽我一族の墓を見物しようと思ったのですが、残念です。ところで、曽我兄弟の仇討ちとは…。

曽我兄弟の父、河津三郎祐泰(すけやす)が伊豆の伊東で工藤祐経(すけつね)の従者によって暗殺されたのは、安元二年(1176)十月、伊豆奥野で行われた狩の帰途でした。暗殺の背景には、祐泰の父伊東祐親と工藤祐経との間に伊豆久須美荘をめぐる所領争いがあったといわれています。

兄の曽我十郎祐成(すけなり)9歳、弟の曽我五郎時致(ときむね)7歳は武士道の面目にかけて仇討の達成を願いました。

兄弟の母は、身の平穏を望み、わが子に仇討ちの志を捨てさせようとしたが、兄弟の父への思慕と、仇祐経に対する憎しみは強く、兄弟は仇討ちの初志を貫く心づもりでした。

それから17年後の建久4年(1193)5月28日、源頼朝が富士山麓を舞台に大巻狩を催し最後の狩場として白糸の滝付近に陣を構えました。工藤祐経の陣は音止の滝の東方にあり、兄弟はこの夜、松明を手に幾つもの木戸に防げられながらも、ついに仇討ちを成し遂げました。

兄弟は駆けつけた部下たちと渡り合い、兄十郎は朝比奈四郎に斬殺され、弟五郎は頼朝の御前目指して奔参しましたが、大友能直(よしなお)に制せられ、小舎人五郎丸に捕らえられてしまいました。

翌29日。五郎に対する尋問が行われ、夜討ちの本意をただしたところ五郎は將軍の面前で直に言上したいと言いはり、許されて幼い頃からの仇討ちについての志しを述べました。

ついで五郎は、拝謁を遂げた後は面前で自害するつもりだったといい、皆を驚かせました。

兄弟の仇工藤祐経は、頼朝の寵臣でしたので、その人を討つということは、頼朝を中心とする東国の武家秩序に対する反逆でありました。従って仇討ち成後は死を覚悟しての行動であったのです。

頼朝は五郎が稀代の勇士であるため助命を考えましたが、祐経の遺児の嘆きを見て、断首による処刑を申し渡しました。

仇討ちをはたした兄弟の遺骨を叔父の宇佐美禅師がこの地に庵を結び、菩提を弔ったことが城前寺の始まりということです。



“二また”というのがくせもの

さて、城前寺を後にして、標識まで戻り、のどかで静かな住宅街をのんびりと歩きます。曾我兄弟ゆかりの地を巡るハイキングコースの標識はあるのですが、不動山の文字はありません。



なんとなく、別のハイキングコースの標識に従って歩くうちに道に迷ったことに気がつきます。車で通りかかった農家に人に道を尋ねます。「ずっと戻って、ひとつ目の二またを右、ふたつ目の二またを右へ行けばいい。でも、不動山はうそ山だから」「うそ山ってどういうことだろう？」

言われた通り戻りますが、ふたつ目の二またが発見できずに気付くと“宗我神社”に。そこにいた人に尋ねます。「まっすぐ行って突き当たりを左折して、道なりに歩いて二またを左に行けばいい」歩き出します。神社にいた人は親切についてきてくれました。「ここを左に行けばいい」と言われた場所は“二また”といえはそうなのでしょうが、直線にたいして左に道が出ているように見えるのです。最初に聞いた人のふたつ目の二または確かにここなのでしょう。地元の人の見方は一致していますから、そういうものなのでしょう。マイッタ！



なるほど“うそ山”不動山

間もなく11時、30分近く道に迷っていたようです。気を取り直して歩き始めますが、延々と舗装された農道の登りが続きます。ガイドブックの地図では、あやしい二またからは、未舗装の山道となるように描かれているのですが…。周りはすべてみかん畑で、みかん畑の農家の人が軽トラックで作業をしています。この農道は、結局一番上のみかん畑まで続き、やっと山道になったと思ったら数十メートルで鞍部に到着しました。鞍部は、山の十字路になっていて、右へ不動山、左へ浅間山、直進は下山道です。とりあえず、ガイドブックに従い不動山を目指すことにします。尾根道を少し行くと、“不動山山頂入口”という指導標を発見。高さ30センチ、幅・奥行きとも5センチ程の小さなもので、見落としていたら、まっすぐ歩き続けて





いたことでしょう。指導標に従い、右手の急な斜面を藪をかき分けて登ります。5分ほどで山頂到着。なるほど、うそ山とはこういうことか。“不動山 標高327.7m”と書かれた立て札があるだけの狭い山頂で、展望もなにもありません。つまらない山でした。

桜井さん、なくしたのは帽子ではなくサングラス

鞍部まで引き返し、浅間山方面の尾根道を緩やかに上ります。5分ほど歩くと左方向に道があり、その先が開けていたので寄り道すると、広々としたみかん畑で、その先には、太平洋が広がっていました。ちょうど12時をまわったところ、ここで、昼食にしました。



食べ終わった頃、桜井さんが、捜し物をしています。どうも見つからない様子。「どうしたんですか？」「サングラスをどこかに落としたみたい」落としたとしたら、農道を登り終えて、鞍部で休憩した時がアヤしいのです。小野さんには待っていてもらい、桜井さん、横山さん、町田で鞍部まで探しに行きました。「あった！」「よかった！」無事サングラスがみつきり、引き返します。小野さんと合流して、浅間山を目指して歩きます。ほとんど平らな広い尾根道が続きます。しかも、車が入れるように駐車しているのです。浅間山に近づくにつれ、車が目立つようになります。拍子抜けするようなハイキングなのですが、景色は素晴らしい！左には箱根の山々、正面から左手には丹沢の



山々が確認できます。まあ、たまにはこんなぶらり歩きも悪くないと思うことにしましょう。

運動不足に効果的

やがて、尾根道は緩やかに下り始め、左手にテニスコートが見えてきました。「こんなところでテニスができたら気持ちいいですねえ、小野さん」「もしかしたら、5月初めに泊まりがけでテニスに来るのはここかも」このテニスコートはいこいの村あしがらという宿泊施設のもの、そのフロントで確認できそうです。一般車道に出るとすぐに“相和農産物販売所”が見えてきて、もちろん物色します。筍など季節の野菜がかなり安く売られていました。みんな買い物をして、目の前の立派な建物“いこいの村あしがら”へ立ち寄りしました。フロントで小野さんが「5月第一土日で　　さんか××さんの名前で13名ほどの人数で予約入っていませんか？」と尋ねると「あります」との答えでした。やっぱりここでやるんですね。





上大井駅までは、富士見塚ハイキングコースを歩きます。ところがここも舗装路。車の少ない山里の景色を楽しみながら、話題は小野さんの糖尿病。運動不足解消には、短時間の激しい運動より、今日みたいなガラガラと長く歩くほうが効果的ということ。駅に着いたのはちょうど15時、よく歩きました。少し健康になったかな？

町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
桜井利子	194-0001	東京都町田市つくし野 1-32-17 042-796-9591
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662

